

系図解読マニアの系図から見えてくる『邪馬台国』

米田喜彦

**私の作った系図には、『三国史記』の王の名前も出てきます。
それは、彼らが夫余の出身だからです。**

そして、日本の皇族の先祖は、夫余の出身だろうと、私は考えているからです。

- ① : 「邪馬台国」は、九州北部のどこかである。（個人的には、耶馬溪の近くだろうと推測。）
豊前風土記にいう、宮処（みやこ）の郡。……。おそらく天照大神の神京（みやこ）である。云々。
- ② : 「卑弥呼」は、独身で、子どもはいない。
- ③ : 大平レポートによる、「黒速（饒速日尊）」は、半島にあった「辰国」の辰王（支所礼王：新羅婆娑王）である。
- ④ : 神武天皇による、神武東征はなかった。実際に東征したのは、宇佐津臣命（二二ギ尊 = 逸聖尼師今）である。
「二二ギ尊」は、複数の人物が混在している。（風土記に出てくる「二二ギ尊」は、大彦命のことで、別人である。）
- ⑤ : 遂成（帥升）は、新羅脱解尼師今（=百済己婁王：77～128）である。（高句麗本紀では、次大王 = 遂成としている。）
- ⑥ : 神武天皇は、（遂成の子で）高句麗 8 代新大王（仇鄒角干 = 伯固：165～179）である。
- ⑦ : 神武天皇の没後、手研耳命（伐休王：184～196）が即位したが、国人は納得せず、卑弥呼（記：日子八井命）を擁立した。
- ⑧ : 手研耳命（伐休王）は、公孫氏と手を組んで、辰国を支配した。卑弥呼（伊夷模 = 日子八井命）は、九州北部に国を移した。
（三国志高句麗伝）：伊夷模（卑弥呼）は、場所を移して新しい国（「邪馬台国」）を建てた。
- ⑨ : 卑弥呼の倭国は、帯方郡の支配を受けたが、どちらかというと反「公孫氏」の立場であった。
- ⑩ : 初代「卑弥呼」は、234 年に「太后の于氏」として、薨去した。

- ⑪ : 初代卑弥呼の同母弟「骨正 = 延優」の娘（小后 = 淳名城津媛 = 『天女』・189 年生）。
 その娘（后女 = 郊? = 阿爾兮夫人・209 年生） ← : 高句麗東川王（在位 : 227~248）
 ← : いわゆる「卑弥呼」である。
 その娘（光明夫人 = 然弗・224 年生） ← : 高句麗中川王（在位 : 248~270）
 光明夫人には、女兒がいなかったため、光明夫人の息子たちが、女王の後継ぎとして、「台与」を共立した。
- ⑫ : 初代卑弥呼は、158 年頃に生まれて、196 年頃から 234 年まで、太后として、王・国相を指名し、王の后を承認してきた。
- ⑬ : 卑弥呼の邪馬台国は、公孫氏が（238 年に）倒れると、すぐに、帯方郡の（新しい太守）に使者を送った。
- ⑭ : 邪馬台国の南（宮崎・熊本あたり）の狗奴国は、公孫氏に近い立場の国だったため、魏の直轄領としての（新しい）帯方郡に対して反抗的であった。
- ⑮ : 卑弥呼の死によって、新しい宮処（みやこ）が、作られた。（邪馬台国は、宮処ではなくなった。）

（補足） <米田が使っている系図は、どんなものか。>

- ① : 私は、系図解読マニアです。ベースに使っている系図集は、『古代豪族系図集覧』です。
 その系図に、「記・紀」や「三国史記」などを加味して、自作（オリジナル）の系図を作っています。
- ② : 新羅本紀は、婆娑王・祇摩王・逸聖王・阿達羅王の在位の期間に問題があります。そこで、内礼夫人の続柄を中心にして、私（米田）が、系図を作り直しました。さらに、『三国史記』を系図的に調べると、新羅本記と高句麗本紀が、微妙に重なることが分かりました。ですから、二つの史料を合体させています。ですから、私の系図の大半は、私のオリジナルです。
 自作の系図の、もとになった史料は、三国史記の「新羅本紀」と「高句麗本紀」です。
- ③ : 「沙乙那」（卑弥呼の祖母）をはじめとする、人物とその生没年は、「曲学の徒氏」（本名 : 桂川光和）さんの掲示板で、HN「radio」氏が投稿してくれた「婆娑尼師今記」を年代は、2~3 年ずらして、テキストに使っています。
 この「婆娑尼師今記」は、何かと云いますと、「南堂朴昌和と彼の遺稿」の一部だろうと、推測しています。
 この「南堂朴昌和と彼の遺稿」は、ニセモノ（贋作）ということになっています。

HN「radio」氏が投稿してくれた、
ほかの王の年代記を調べると、つじつまの合わない処もあって、とても史料として使えるものではないのですが、不思議に、
この「婆娑尼師今記」だけは、妙に、詳しくて正確なのです。ですので、この「婆娑尼師今記」の部分だけを使っています。
ということで、細かい生没年と、10人くらいの人物については、この「婆娑尼師今記」から使っています。

- ④ : ①・②・③だけでは、系図線がすべてが、埋まり（つながり）ませんでした。それで、「大平レポート」や「神話の系図」などを一部、利用しました。最後に若干、私の想像による系図線が、含まれています。
- ⑤ : 自作の系図や色々な考察は、「曲学の徒氏」（本名：桂川光和）さんの掲示板（「邪馬台国掲示板」）で、投稿・発表させていただいています。詳しくは、そちらをご覧ください。